

売上高8544億円 最高 25年3月期

バローホールディングスが13日発表した2025年3月期連結決算は、売上高に当たる営業収益が前期比5・8%増の8544億3500万円となり、30期連続で過去最高を更新した。主力のスーパーマーケット(SM)のバローで客単価が上昇し、売り上げと利益をけん引。プライベートブランド(PB)の拡充や名古屋、大阪の物流拠点の稼働でコストを削減し、純利益は14・3%増の136億5400万円で過去最高となった。

精肉の生鮮部門を強化する店舗改装の効果で既存店の客数と客単価が上向いた。関西ではドミナント(地域集中出店)で新規出店を増やし、売上高は6・4%増と全体を押し上げた。ドラッグストア(DS)事業は、調剤専門薬局の新設とDSへの調剤薬局併設を進めて処方箋枚数が増加。生鮮食品と総菜、生花の品ぞろえを増やしたことも奏功し、売上高は3・8%増だった。

ホームセンター事業は、猛暑で夏物季節商品、南海トラフ地震臨時情報の影響で防災・災害対策商品が売れた。客数は減ったが客単価は伸びた。EC(電子商取引)部門も伸び、売上高は2・8%増だった。ペットショップ事業は犬猫フードの売り行きが好調で6・1%増。スポーツクラブ事業はスイミングスクールの受講者数の増加などで4・0%増。流通関連事業はSM、DSの新店、改装増に伴って資材、備品の売り上げが増え、29・8%増えた。

損益面はSMとDSで共通展開するPBを増やして利益を改善したほか、投資

マネジメント強化で減損損失を14億円減らした。店舗網はSM11店、DS31店など計129店舗を新設、28店舗を閉鎖。3月末のグループ店舗数は1449。

26年3月期は78店舗を新設してグループ1500店舗以上を達成し、増収増益を見込む。